

競技上の注意

群馬県中体連卓球部

競技者は、各地区から選ばれた代表であることを誇りに、スポーツマンシップに則り、ルールを遵守し、中学生らしい身だしなみ（まゆ・染毛・ピアス等）のもとに、正々堂々と競技して下さい。

【ルール】 現行の日本卓球ルールを適用し実施します。ホワイトボールを使用し、2社（ニッタク・T.S.P）からの選球とします。選球の際、競技者が異なるボールを選択した場合はトスを行います。

・試合

1ゲーム11本制、サービス2本交代、5ゲームマッチです。

団体戦はトーナメントは3点先取。どちらかのチームが初戦の場合、勝敗決定後も1ゲームのみ行ってください。リーグ戦はオーダー順に3点先取です。

・サービス

①オープンハンド（指にかからぬよう手のひらにボールをのせる）で静止してから、ボールをのせた手が台の下に沈むことなく、指にかけずに16cm以上に垂直方向に投げ上げ（最近では巻き込みサーブで自分の体に向けて投げ上げる選手が目立ちます。また、手からボールが離れた位置から16cm以上上げる）、落下してきたところをエンドラインよりも後方の位置でインパクトして下さい。

②サービスの開始（オープンハンドで静止）からインパクトまでの瞬間が、常にレシーバーから見えるようにして下さい。

③審判部の方で、疑わしいサービスには注意を、明らかにミスとわかるサービスは失点とします。

・タオルの使用

タオルの使用は6本ごとのサービスチェンジと、ファイナルゲームのチェンジエンドの時のみです。

・抗議

主審または副審による事実の判定には抗議できません。個人戦では競技者本人であり、団体戦ではチームの監督のみです。

・促進ルール（本部より指示する場合もある）

1ゲームで10分経過し、競技者（組）双方の得点の合計が18点（9-9、8-10、10-8）以上に達していない場合、促進ルールを適用します。ただし、競技者（組）双方の合意があればいつでも適用できます。

・タイムアウト

1マッチに1回、ラリーとラリーの間に1分以内の「タイムアウト」を要求できます。タイムアウトは、主審に対して口頭および手で「T」を示し要求して下さい。同時に両者が申し出た時は1分のみです。

【進行および審判】 原則タイムテーブルにより進行されますが、状況によりコートや試合開始時間を変更する場合があります。

団体戦…直接相互オーダー交換方式、相互審判（シングルスも各台2名）で行います。勝利校の代表者は速やかに結果を本部に提出して下さい。ベンチ入りできる選手は10名までですが、3台進行の場合1名、5台進行の場合3名の審判要員を認めます。ただし審判要員（必ず白以外の服装）は、審判業務が終了したら、直ちに観覧席へ戻って下さい。

個人戦…初戦は相互審判、その後は敗者審判です。敗者はコートに残り、勝者は結果を本部に速やかに提出して、次の試合の対戦表を敗者審判に渡して下さい。ただし、試合によっては相互審判をお願いすることもあります。

主審はジェスチャーをはっきりとして下さい。ダブルスではセンターラインもしっかりと見て下さい。副審はカウンターを胸の高さにし、6ポイントごとに90度回転して下さい。

【選手】

・あいさつ：試合開始前と終了後にしっかりとあいさつや握手をして下さい。

・服装について：県大会は公式戦ですので、ユニフォームはチームで揃えてください。（同じユニフォームを着用していない選手は、審判要員としての扱いとなります。）またシューズ・ゼッケン

等も含め、身だしなみをしっかり整えて下さい。また、ゼッケンピンについては、市販のものでデザインされたものは可としますが、自分で手を加えたものなどは禁止とします。

- ・身なり：校訓に則ってください。
- ・ラケットとラバー：ゲーム間はラケットを卓球台（テーブル）の上に置いて下さい。
ラバーの接着剤は公認のシートか水溶性の接着剤を使用して下さい（無作為抽出でラケット検査を実施することもあります）。ラバーは4mmを超えないように注意して下さい。接着剤の使用は所定の場所で行って下さい。
- ・レットの判断：サーブがネットに触れたと判断した場合は、手で取るのではなく、アピールしながらラリーを続けてください。審判の判断前に取ってしまった場合、失点になります。

・バットマナーの禁止

競技者、監督が相手の競技者に対して不当な影響を与えたり、観客に不快感を与えるなど、ゲームの評判を落とすような癖や態度（大声で叫び汚い言葉を使う、相手の選手を威嚇する、故意にボールを蹴ったり競技領域外に打って出す、卓球台やフェンスを乱暴に扱う）、あるいは無断でラケットを交換、競技役員の指示を無視する等が見られた場合、警告・相手のポイント・退場・失格などのペナルティーが課せられます。遅延行為もバットマナーです（タオルの使用・ポイント間やゲーム間・あいさつの後にベンチに戻る・ノートへの記入等）。

・その他

飲み物は床が濡れないようにドリンクホルダー等に入れて下さい。雑巾を使う場合は、卓球台のネットぎわ横にビニールの上に敷いて下さい。使用する際は、原則としてタオルの使用に準じます。

- ・怪我の場合は最長10分の時間を設けますが、それを超える場合は審判長判断で、選手の健康を配慮しての棄権となることがあります。なお、鼻血の場合は出血が止まるまで中断します。（出血が長時間にわたって止まらない場合は、選手の安全を配慮して棄権になる場合もあります。）

【ベンチ】

- ・アドバイス：ゲーム間のアドバイス・タイムアウトは1分以内とし、それ以外にアドバイスは認めません。
原則としてプレー領域でアドバイスをして下さい。（高校生以下の大会では今まで通りであり、ラリー中を除いていつでもアドバイスを受けることができる、というルールは適用されません。）

・ベンチメンバーおよびアドバイザー

団体戦でベンチに入ることができるのは、当該校の職員（管理職・監督・顧問・部活動指導員）、外部指導者を含めて2名（外部指導者2名のみは不可）以内と登録メンバー選手10名、及びその試合で認められた審判要員（ただし、担当コートの審判が終了したら観覧席に戻る）のみです。

個人戦のアドバイザーは、当該校の職員（管理職・監督・顧問・部活動指導員）、外部指導者、当該校生徒いずれかの1名のみです。ただし、1名のアドバイザーが複数名の選手を抱えベンチに入る可能性がある場合は、ベンチを空席にしておき移動してください（ただし選手1名に対して、必ず1名のみアドバイザーとします）。

※外部指導者がアドバイザーに入る場合についても、当該校の職員と同様の扱いとなりました。

※挨拶後はベンチにもどらない。試合終了後の相手ベンチに対する挨拶は不要です。

※審判要員としてフロアに降りる生徒の服装については、白以外の服装とします。顧問の先生、コーチの方も協力をお願いします。

※マッチをさかのぼっての注意はありませんが、今までは大丈夫だったから今回も大丈夫だというわけではありません。注意を受けた段階で、その注意に従うよう協力をお願いします。

【応援席】

- ・観覧席からのアドバイスはできません。選手が失格となる場合がありますのでご注意ください。また、審判の裁定を覆させるような発言もしないでください。
- ・フラッシュ撮影は禁止します。
- ・相手や空いてベンチを不快にさせたり、周りに影響を与えたりするような大きな声については、審判部から注意を与えることもあります。